

【令和6年度 第1回リーベルネットワーク会議】

日 時:令和6年10月3日(木) 10:00~11:40
場 所:八女市立花市民センター イベントホール
参加者:児童関係(めぶみ、さら、あるくとぷらす、amimo 八女町屋、八女総合療育館、HIRO キッズ、つくし園)、計画相談(ゆうゆう、よろず屋、悠、リーベル)、就労関係(若楠園、こころ、さんふらわあ、八女作業所、八女てらす、ワークスペース蓮、夢と希望、ちくご作業所あいあい)、入所等(陽だまりの里、蓮の実園、蓮の実団地、スタートラインたちばな)、就業・生活支援センターデュナミス、発達障がい者支援センターあおぞら、八女市社会福祉協議会、公共職業安定所、福岡県立筑後特別支援学校、南筑後保健福祉環境事務所、八女市教育委員会・子ども相談室あおいとり。 事務局:八女市障がい者福祉係、八女市障がい者基幹相談支援センター。
内 容 1. 開会のあいさつ (八女市障がい者基幹相談支援センター 大塚博嗣) 2. 議事 (1)報告事項 ① 部会活動について (資料1) ・こども部会 報告:井手口 ・権利擁護部会 報告:山村 ② 地域連携推進会議の意見交換について 報告:八女市福祉係 高山係長 ・令和6年度の報酬改定で、地域連携推進会議が令和7年度から必須となり、関係機関からの問い合わせがあり、7月26日に会議を開催した。12法人21名の参加。国の方針の共有と意見交換、顔の見える関係づくり、そして関係性の構築を図った。各機関からの質問を8月中で締め切り、9月5日に県へメールで質問しているが、まだ回答がない。回答が届き次第、各法人へ伝達する。 会議のメンバーに民生委員も参加となるため、今後民生委員会にも説明を行う。 ③ 第28回八女市障がい者等自立支援協議会について (令和6年7月11日開催) 報告:八女市福祉係 高山係長 ○自立支援協議会のリーフレットの改定作成について。 より協議会の意義や仕組みを可視化する。 ○日常生活用具の「紙おむつ」の給付について。 ストーマ用装具代替品の紙おむつについて、実際の困りごとを共有、対象者(脳性麻痺等の脳原性運動機能障害)の改善を始めた。 ○人材確保、育成について。 「ふくしのお仕事」チラシ紹介。「ケアニン」の映画上映の際に配布。 八女市役所のHPでも、求人のリンクが出来ることを取り組む。 ○「にも包括」について 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築」 身体障害者については、随分整備が進み、生活しやすくなっているが、精神障がいについては取り組みが遅れている。自立支援協議会に報告し今後取り組んで行くことを提案した。今日の会議でも協議をお願いしたい。

(2) 協議事項

① 「にも包括」について (資料②)

(精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築)

○井手口より、グループワークの主旨、協議方法について説明。

8グループで意見交換を行う。(30分ほど)

・グループ発表

内容について資料参照。(資料③)

・高山係長より、今日頂いた意見については、自立支援協議会で報告し、協議を頂き、又、ネットワーク会議へ報告したい。

(3) その他

①障がい当事者の作品展示、販売などについて 報告:堤

・在宅障害者の方で、絵が好きな方も多く、先日地域生活支援センターで絵画展を開催。1日限りではあった。他にも、絵や手芸品等創作活動をされている方も多く、展示や販売する機会があったらいいなど考えている。入所施設でも取り組みをされていると思うので、今後アンケートなどを取らせていただき、活動を始めたい。是非賛同される方は一緒をお願いしたい。

②就労事業所の集まりについて 報告:大塚

・子ども部会や権利擁護部会の活動が始まっているが、就労関係でも色々な動きが出てきている。協議する場が必要とも思えるため、今後事業所へ意向を伺っていきたい。

3. 閉会の挨拶

社会福祉法人 楠会 理事長 木下秀幸氏

- ・就労事業所を運営しているが、「子どもの時のことを知らずに、今支援はできない」と思っている。どのように生活されてきたのか知ることが大切になりたい。
- ・権利擁護については「愚行権」等、学びたい。何が利用者の権利なのか？考え理解していく必要がある。
- ・地域推進連携会議、行政は多忙なので、関係機関が声を上げていく必要がある。その為にもこのような会議で顔が見える関係を作り、ネットワークを強固にする必要があると思う。今後、地域として連携していきましょう。

以上